



おかし  
イタズラ  
くれな  
まきや  
ぞんぞん!

満ち潮  
漸たまり  
成人向




あはれ

あはれ

あはれ

あはれ  
あはれ



町から離れた森の奥  
小さな家に  
魔法使いが住んでいた

ハロウィンになると  
庭のカボチャが踊りだし  
森には優しいお菓子の  
香りが広がった



おかし  
くれなきや  
イタズラ  
するぞ!!

ハロウィン  
だぜ!  
イエイ!!





祭りなら  
カボチャたちに  
任せておけ

ハロウィンってのは  
休日じゃない



お菓子  
くれよ

楽しいイベント  
なんだよ!



お師匠の  
ケチ!!

そんなこと  
してないで  
課題は  
どうした?



うちの庭は  
カボチャ団地に  
なったんだぞ

動けるように  
しやがって  
ウザイなら  
ねえよ...  
...うん



お前が  
無駄に  
ランタンを  
作るから...

見ろ



まったく...  
さつきと  
戻って  
勉強しろ!



まったく



余計なこと  
ばっかり  
するな!!

やべ...

何してる!!



ああ

わーい♡

やった!  
いっぱい  
あるんじゃない!

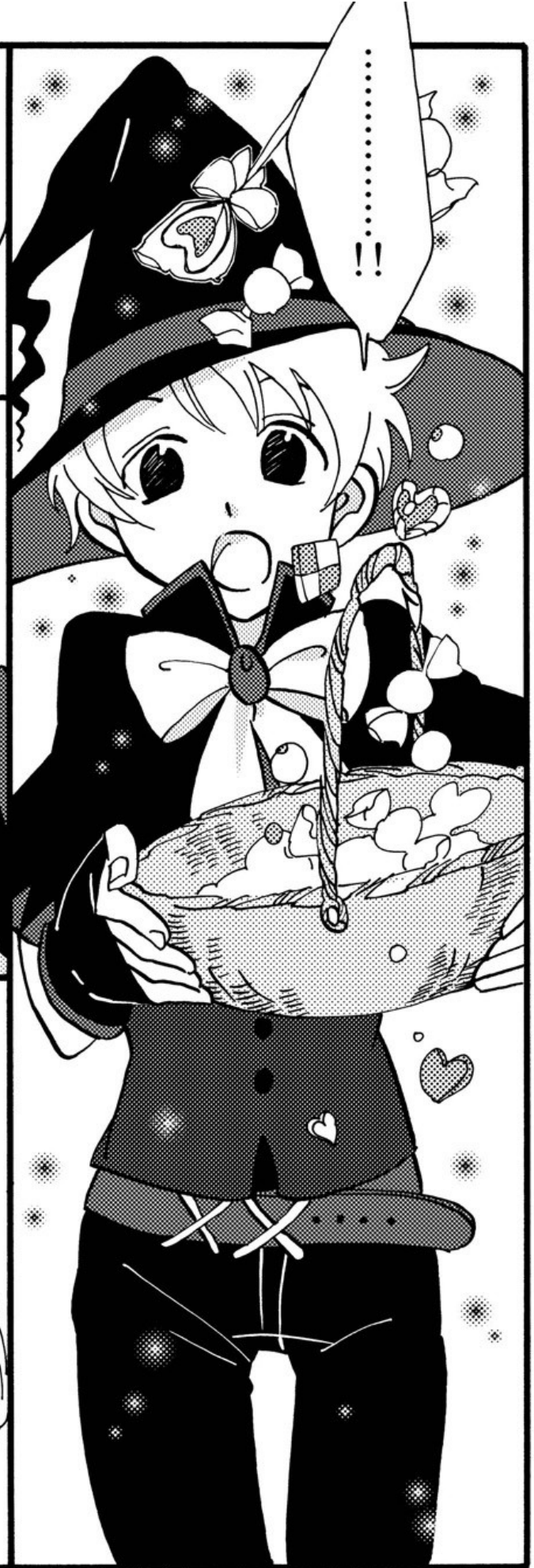


そんなに  
喰いたいなら  
喰わせてやるよ  
思いつき



チョコもアメも  
今日はウイリーの  
好きなだけ  
出してやるう

一番甘い食べ方で  
食べてもらおうか



!!  
.....

っん

っん



どうだ  
美味しいか  
あ

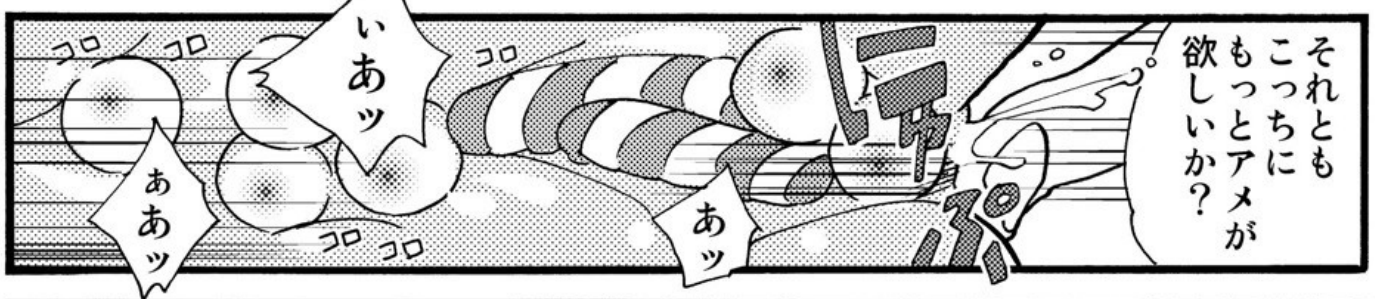
…や  
お師匠!



ん  
こんな  
よだれ  
垂らして  
いるのか

嫌だど?  
ベタベタに  
なって

高い体温だ:  
チョコがすぐ  
溶けてしまうな  
いや



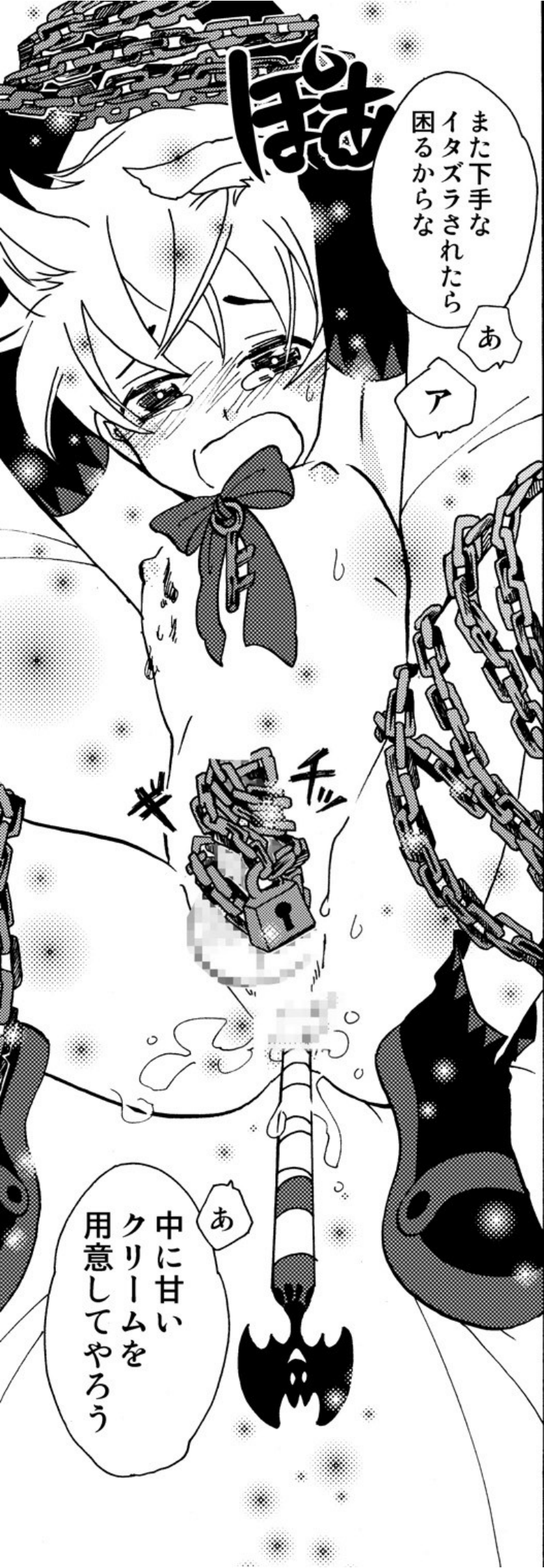
あッ  
あッ  
あッ

それとも  
こっちに  
もつとアメが  
欲しいか?



あ  
あ

やわらかい  
マシユマロも  
グミもあるぞ  
あ



また下手な  
イタズラされたら  
困るからな

ぽん

あ

ア

チッ

あ

中に甘い  
クリームを  
用意してやろう



ああ  
忘れていたな

大好物の  
マドレーヌだ



ほら

ひう

アッ

こうばしく  
焼けてるだろ



ふ

う

う

他にウイリーの  
食べたいのは  
なんだ?

タルト?  
メレンゲ?  
アイスクリーム?

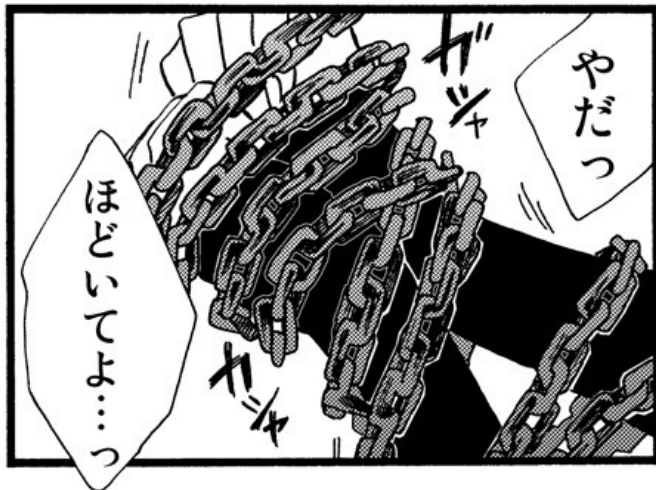
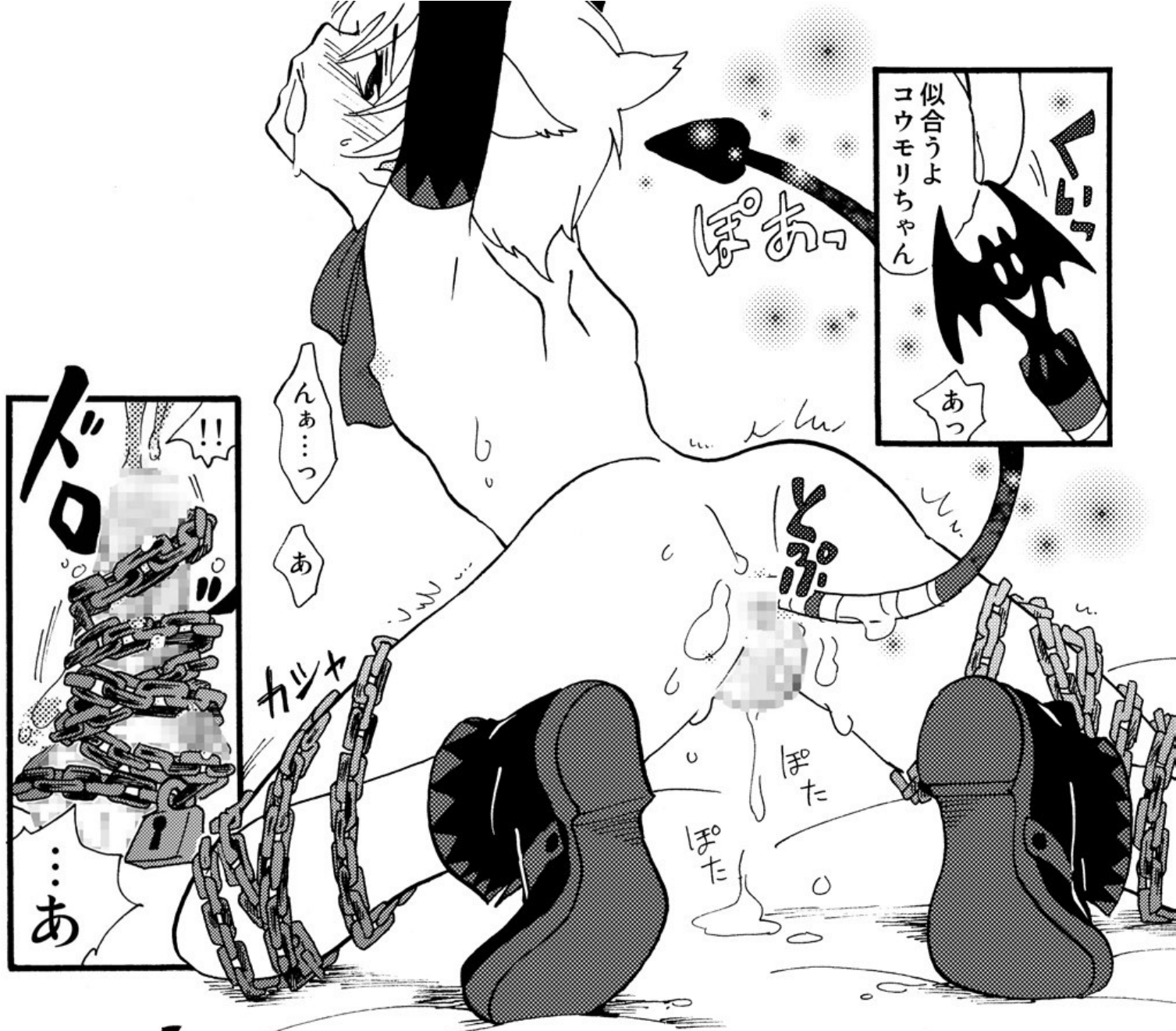


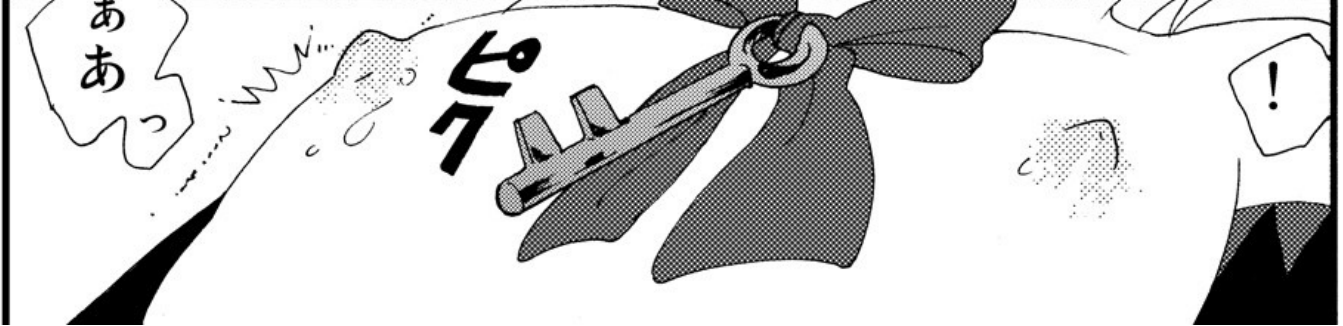
!

それ:  
オレの杖

っ

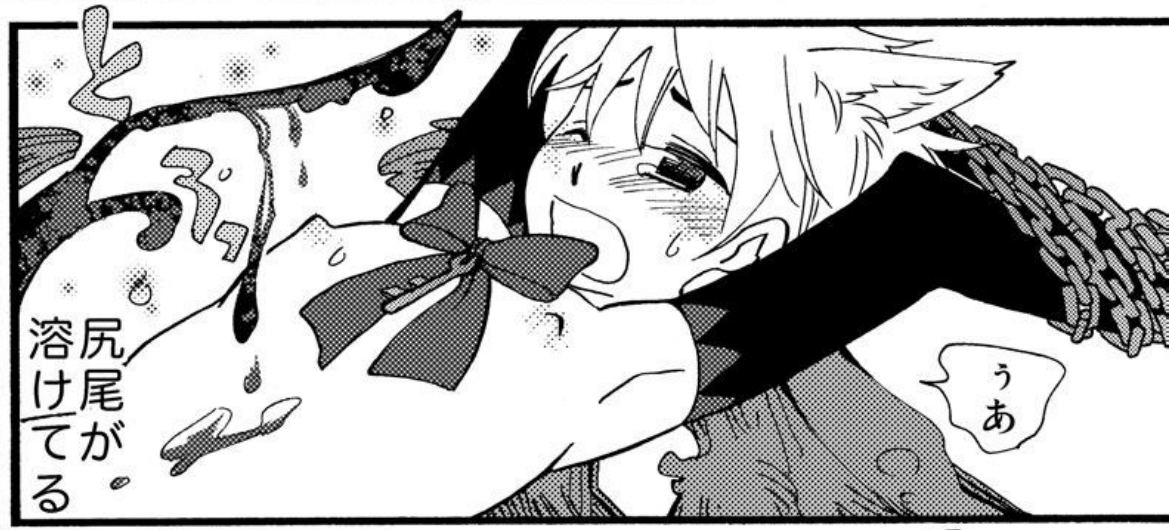
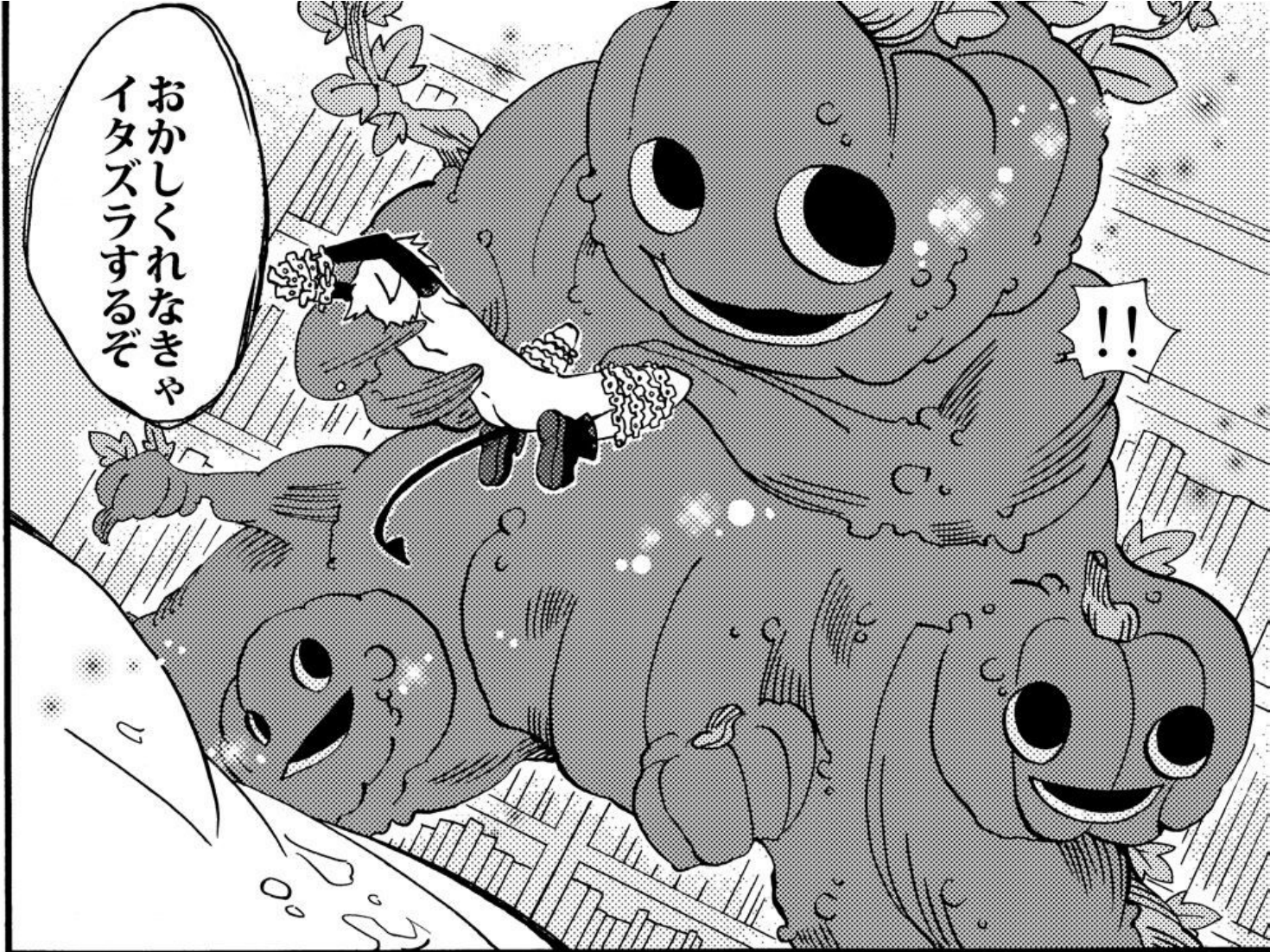
そうだお前  
カスタードが好き  
だったっけな

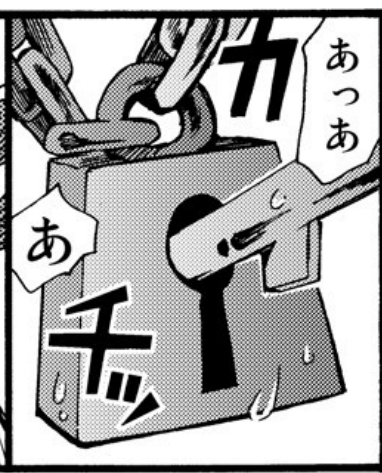
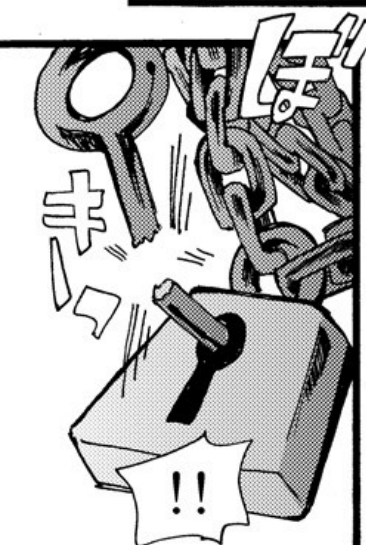
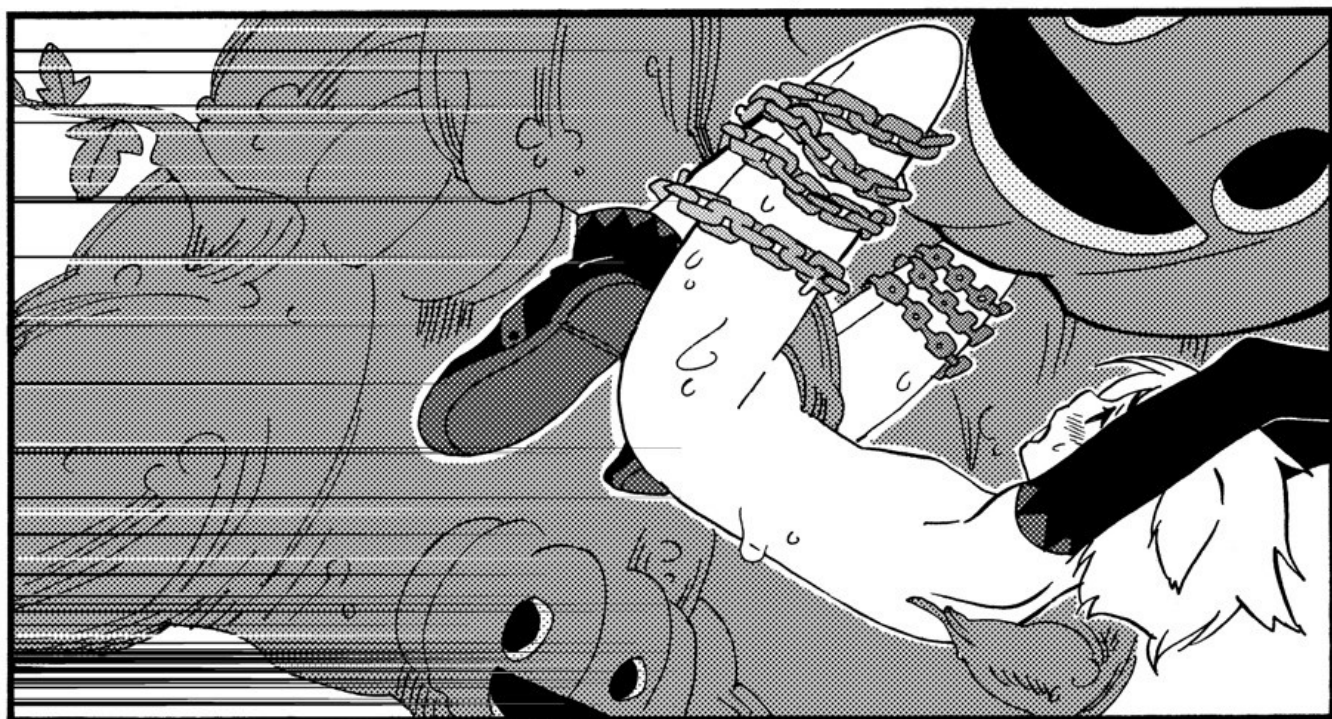
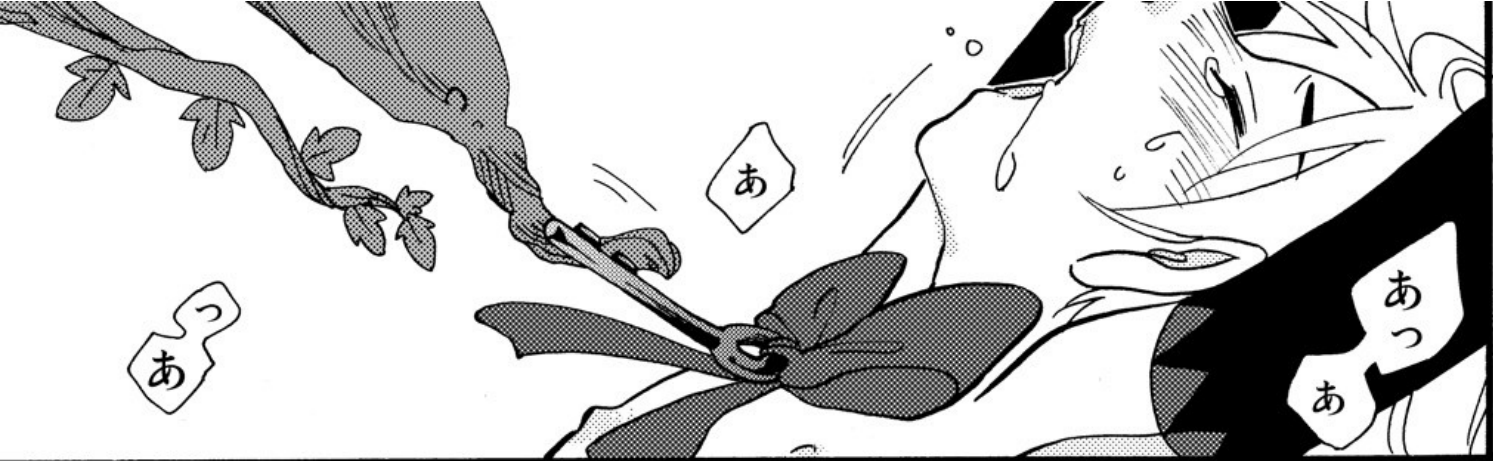


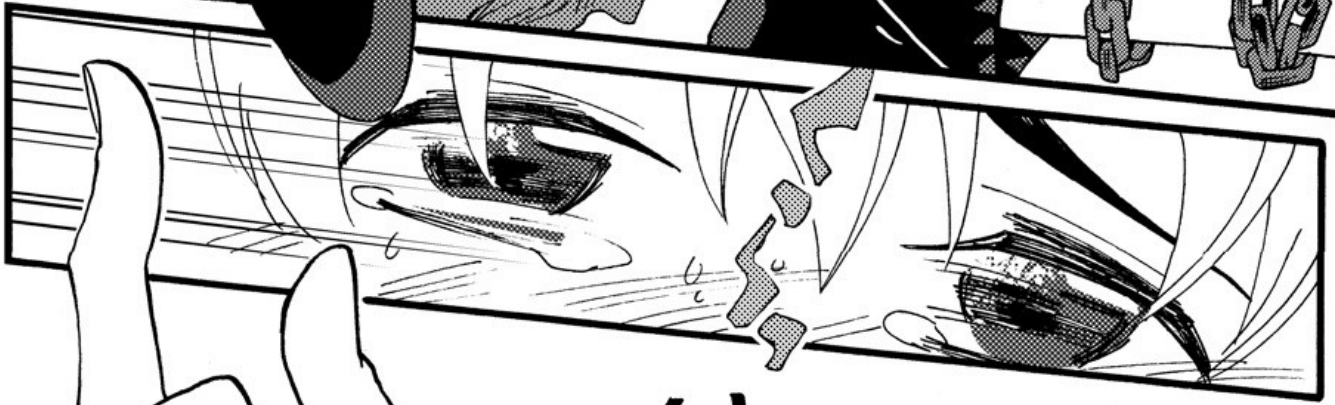












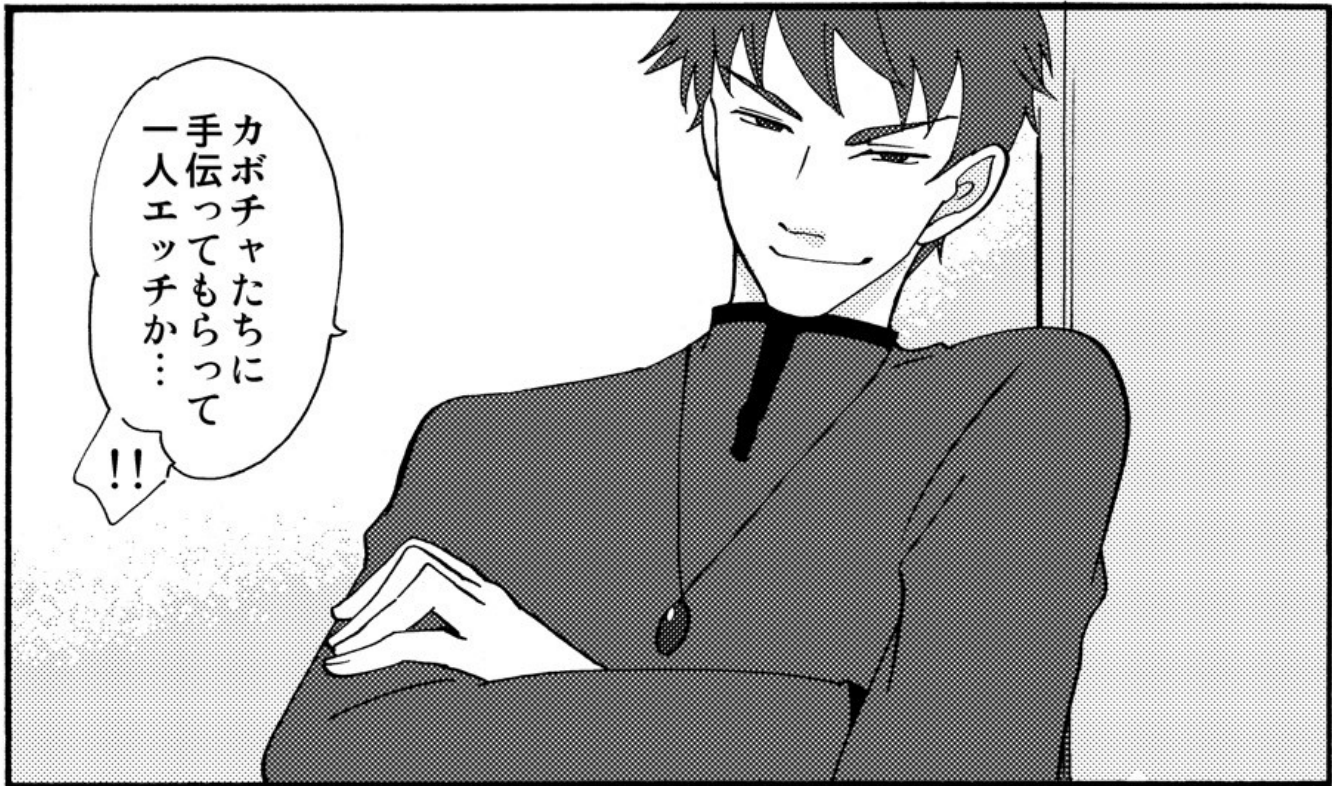
ほおん、



あーあー  
まったく  
仕置きに  
ならねえ

ずいぶんと  
楽しんでるな  
反省して  
ないのか

ぽす



カボチャたちに  
手伝ってもらって  
一人エッチか…

!!



こいつらが  
勝手にして  
きたんだ…!

無自覚なのか?  
カボチャは  
お前の力だよ

勉強も

これくらい  
集中して  
取り組んで  
ほしいな  
これ…ビスケット



ちゃんとして  
覚えねえと  
いつかカボチャに  
喰われるぞ

んん

ぽす

ぽす  
ぽす

う

う

う

う

大事な鍵は  
お前が壊して  
しまった  
だろ

とって  
とって

お師匠……っ  
ん？

ぽん

とって……  
これも……！

それとも  
まだ隠して  
持つてるんじや  
ないか

もって  
ない

そうか  
じゃあ一体  
どこだろうな？

あッ

美味しそうな  
甘いソースが  
できてる

にゅ  
にゅ

すごい  
ぬるぬるだ

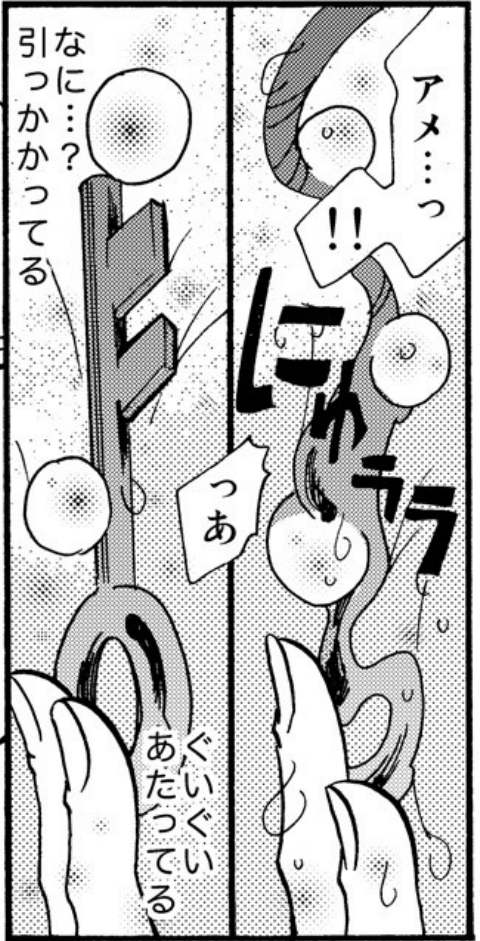
ここは  
どうだ？

ん

持つてる  
じゃないか  
!?

ちが……っ  
ちがう

なに



ほら...  
あるじゃないか



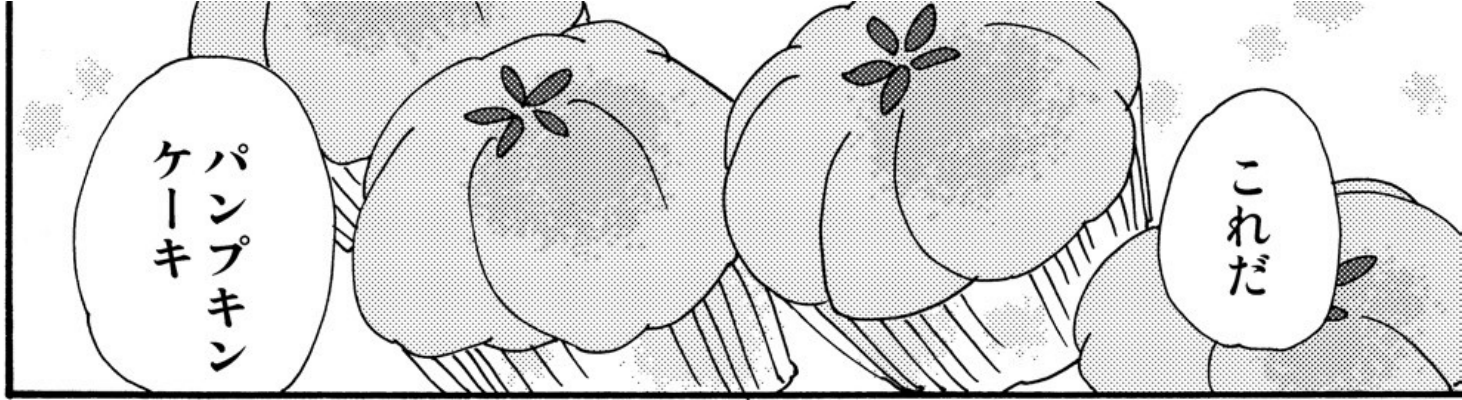


ああ

あっ

お師匠  
何を  
作ってたの？





パンプキン  
ケーキ

これだ



お前が無計画にカボチャをくり抜くから

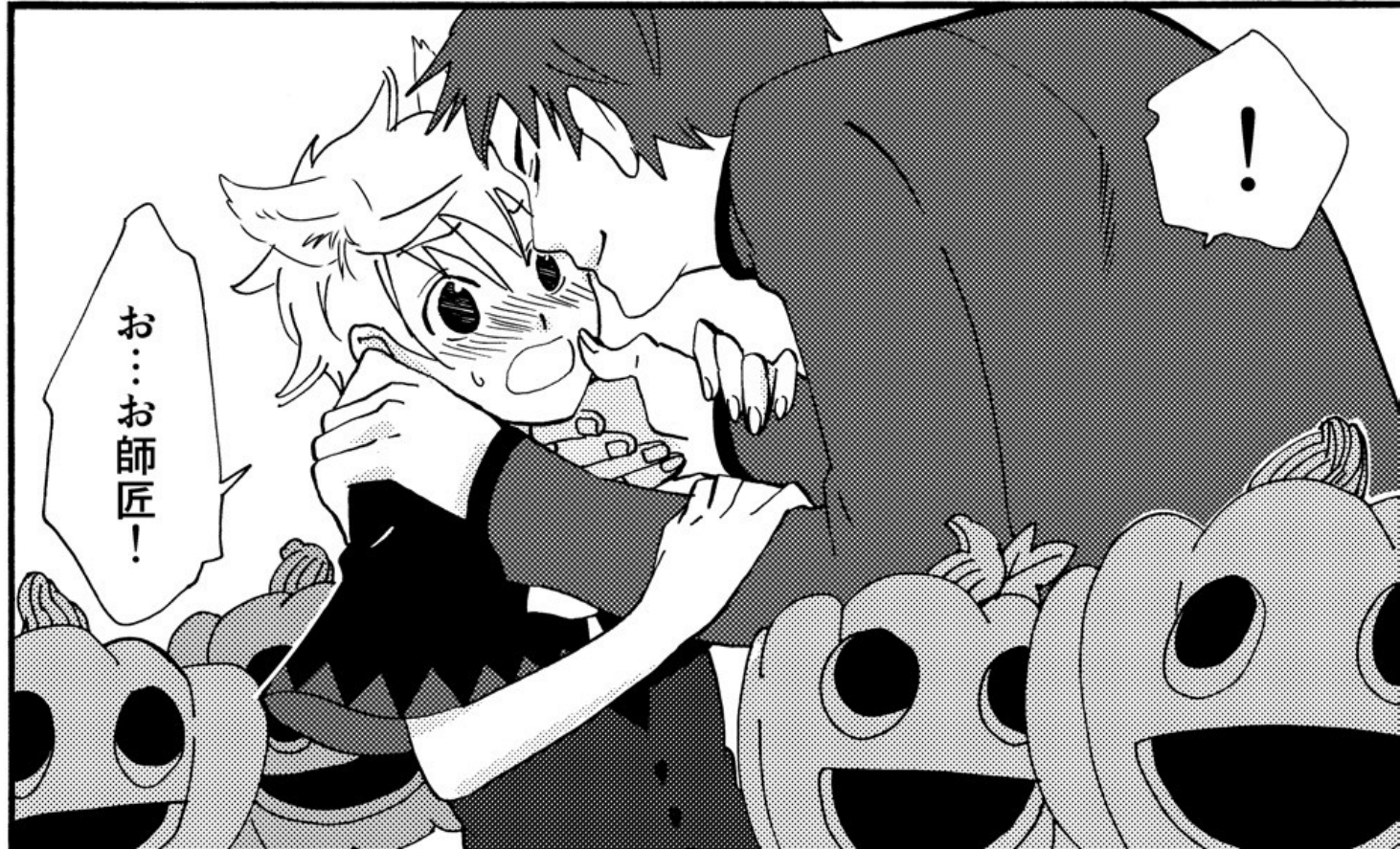
見ろこのカボチャの  
ざんがー  
しばらくはカボチャ料理だぞ

どうした  
?



ははっ  
スケベな奴だな

甘い匂いでえっちなことでも思い出したんだろ  
ちがうよ！  
考えてないよ  
そんなこと！



お…お師匠！

!

ま  
つ  
た  
く  
だ  
困  
っ  
た  
奴  
だ



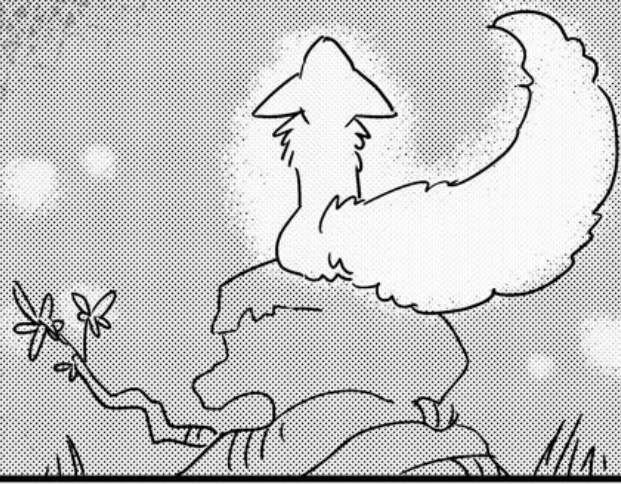
END



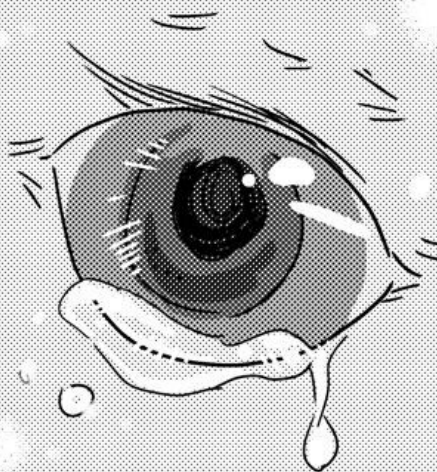
ちいさなキツネは  
ひとりぼっちでした

おなががへって  
さみしくて  
さむくって  
ずっと泣いていました

ちいさいキツネは  
それをいなくて  
ずっと泣いていました



それは星の  
こぼれそうな  
キラキラした  
よるでした





魔法使いは  
魔法を使いた  
魔法を使いた  
魔法を使いた

魔法使いは  
魔法を使いた  
魔法を使いた  
魔法を使いた

魔法使いは  
魔法を使いた  
魔法を使いた  
魔法を使いた

魔法使いは  
魔法を使いた  
魔法を使いた  
魔法を使いた



魔法使いと  
魔法を使いた  
魔法を使いた  
魔法を使いた

魔法使いと  
魔法を使いた  
魔法を使いた  
魔法を使いた

人間は戦争を  
していました

森を焼き  
町を焼き  
人を焼いて

長い間ずっと  
殺し合いを  
していました

国がかわり  
時代がかわっても

敵を見つけて  
大義を見つけて  
ずっと殺し合いを  
していました

戦いの上手な  
魔法使い  
王に褒められ  
人々に賞賛され

こぼれるほど多くの  
勲章を貰いました

魔法使いの黒いマンツは  
いつも赤に染まって  
さらに黒く重い色に  
なっています

ちいさなキツネが  
いました

こんなに月が  
キレイなのに

どうして空を  
みないの？

こんなに風が  
きもちいいのに  
どうして  
笑わないの？



なんでも  
知っ  
ている  
はずの  
魔法使いは

こたえられ  
ません  
でした

魔法使いは  
戦争の中から  
姿を消して  
しまいました



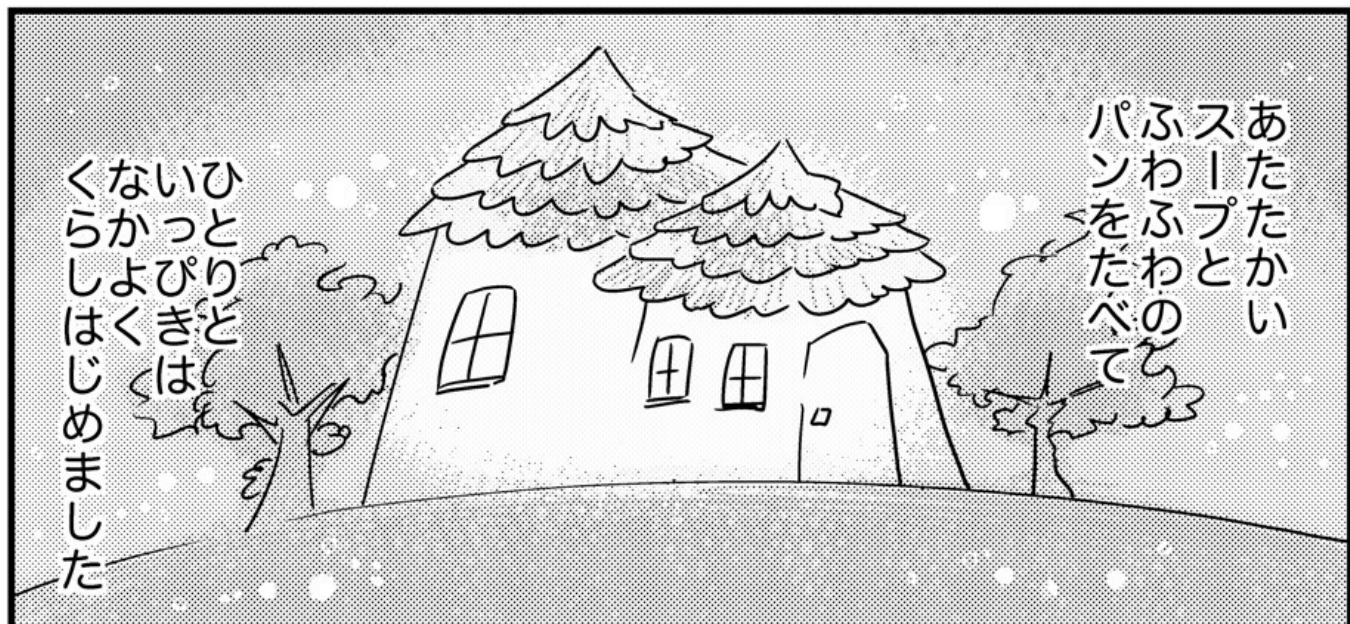
べたついた  
黒をまとい  
むせかえる  
殺意を抱えて

ざらついた  
夜ばかり見  
きた魔法使  
は知りませ  
んでした

夜がこんなに

美しいのだと





魔法使いは  
もっといい  
なりました  
わせに



Thanks



# あはれな人々へ おめでとう！！

発行サークル  
審者・発行責任者

満ち潮  
潮だまり